

第22回日本生殖看護学会 学術集会

教育講演

前橋、2024. 9. 22

卵子提供を希望されるカップルへの情報提供と看護支援

森分純子

I V F大阪クリニック

2021年日本で体外受精は年間約50万件実施されている。不妊治療を受けるカップルは年々増加し、40歳以上の受療者は約4割であり、妊娠・出産できるのは約1割の現実がある。不妊治療を受ける患者の多くは、治療成績の情報提供を受けても自己卵子による治療の限界まで回数を重ねARTを行っている現状がある。その結果、卵子提供や養子縁組により親になる選択が年齢制限の壁で叶わないことがある。当院では不妊治療カップルが「知らなかったから選択できなかった」ということがないように不妊治療中であっても不妊治療以外の選択肢がイメージできるような情報提供を行い、納得した意思決定ができるよう、医師や看護師（多職種）と連携した患者支援が必要と統一方針で診療をしている。

当院では自己卵子での不妊治療において妊娠が困難な場合、治療の継続、不妊治療以外の選択肢、家族について、カップルが考えられるように情報提供の場として個別相談や集団相談を設けている。個別相談では、診察後の看護師説明や看護師相談を実施し、感情表出、治療の振り返り、今後の治療などを整理できる場の提供を行っている。情報提供相談室では、卵子提供について、渡航の流れ、当院でのバックアップ、出産についての情報提供を行うだけでなく、告知も卵子提供前に夫婦で検討してもらい実施方法も具体的に伝えている。集団相談では、卵子提供を選択された方を招き体験談講演の「患者会 LaLa Café」と、不妊治療以外の選択肢の情報提供「患者会 Next Step」を開催している。

「Next Step」は医師から「女性の妊孕性、日本の不妊治療、不妊治療以外の選択肢、更年期治療」、生殖医療相談士より「卵子提供、養子縁組、夫婦ふたりの生活」について情報提供を行っている。両患者会共に、自分の気持ちを話せ他者の気持ちを聞けるクロズドグループディスカッションを行い、同じように悩み、迷い、悲しみ、未来への思いを共有してもらうことで、孤独感が緩和し感情整理ができ、流涙後に笑顔が出せるよう支援している。

これまでに開催した患者会で、卵子提供の情報を知っておきたい時期についてのアンケートを行い、回答を得た125名から、治療前36%（37名）、治療開始直後17%（18名）、1年後22%（23名）、2年後12%（12名）、終結検討時16%（17名）と、治療早期から情報を求めていることがわかった。開催をホームページや院内アプリで発信し、参加対象を設けないことで、カップルが希望するタイミングで情報が得られと考える。

情報提供後にカップルが卵子提供を検討する過程においても、夫婦の意見の相違、遺伝的つながり、費用、出産時の年齢、子育て、周囲の声、海外への渡航と多重のハードルがあり苦悩される。卵子提供を受けるカップルの多くは、治療の反復不成功体験から、悲しみを最小限にできるよう、結果に期待せず感情をコントロールする防御反応の傾向がある。しかし、卵子提供を受けた後は、高い妊娠率に大きな期待が現れ、陽性の場合には喜びとともに、流産するかもしれないと不安を抱き感情のアップダウンが激しい予期悲嘆の患者が多い傾向がある。また、陰性の場合には、卵子提供を受けても妊娠しない現実に絶望し、自責の念や抑うつ、孤独感などの悲嘆反応を示す患者もいる。そして、余剰凍結胚にて複数回の卵子提供を実施する患者は、感情に蓋をする防御反応が強い傾向があるため、個別性に応じた看護支援が必要であり、相談室担当者が経過を情報共有し継続支援が必要と考える。